

防災だより

平成24年8月発行
第3号

阪神・淡路大震災では、早朝に地震が発生したため、ほとんどの人が就寝中で、倒壊した家屋や家具の下敷きになり多くの方が亡くなりました。過去において静岡県周辺で起こった大きな地震でも、多くの木造住宅が倒壊するなどの被害が発生しています。これらの地震を教訓に、被害をできるだけ少なくするために、建物の耐震化を推進していきましょう。

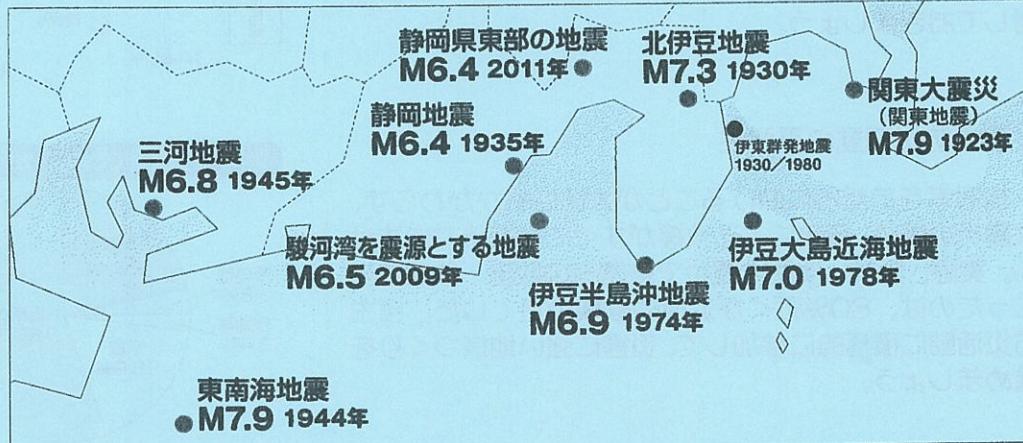
静岡県周辺で起こった大きな地震

関東大震災 1923年
(関東地震) (大正12年)
M7.9 9月1日 各地で火災が発生したため、被害が増大した。
死者・行方不明者142,807名、家屋の全壊128,266棟、
焼失447,128棟などの甚大な被害に見舞われた。相模湾
沿岸には津波が来襲し、波高は熱海で12mにも及んだ。

北伊豆地震 1930年
M7.3 (昭和5年)
11月26日 死者272名、家屋の全壊2,165棟。丹那断層(長さ35km、
横ずれ最大2~3m)が動き、山崩れや崖崩れが多数発生した。

静岡地震 1935年
M6.4 (昭和10年)
7月11日 死者9名、家屋の全壊363棟。静岡・清水に被害が多く、
清水港で岸壁・倉庫が大破などの被害があった。

東南海地震 1944年
M7.9 (昭和19年)
12月7日 静岡、愛知、岐阜、三重の各県に被害が多く、全体で死者・
行方不明者1,251名、住家の全壊16,455棟など。遠州灘
沿岸で1~2m、下田市で最大2.1mの津波に襲われた。



三河地震 1945年
M6.8 (昭和20年)
1月13日 死者2,306名、住家の全壊7,221棟など、
三河湾沿岸の幡豆郡を中心に被害が発生した。

伊豆半島沖地震 1974年
M6.9 (昭和49年)
5月9日 石廊崎付近の活断層が動き、死者30名、負傷者102名、
家屋の全壊134棟など、南伊豆町を中心に被害が発生した。

伊豆大島近海地震 1978年
M7.0 (昭和53年)
1月14日 死者25名、負傷者211名、家屋の全壊96棟など、
河津町を中心に被害が発生した。

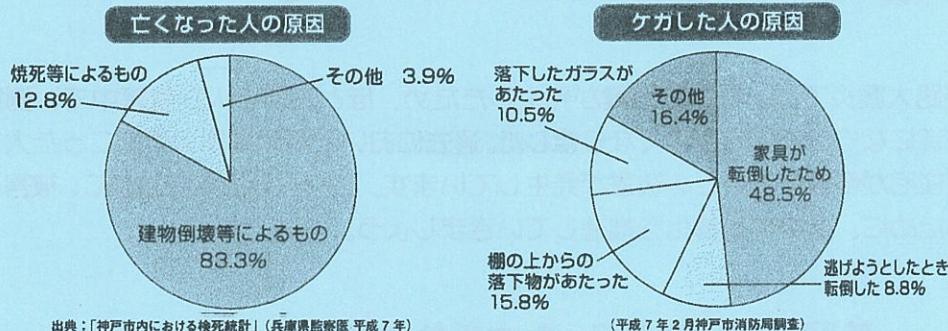
駿河湾を震源とする地震 2009年
M6.5 (平成21年)
8月11日 死者1名、負傷者319名、家屋の全壊はなかったが、
半壊6棟、一部損壊8,672棟など、静岡県中部を中心
に被害が発生した。(平成22年3月12日現在)

静岡県東部の地震 2011年
M6.4 (平成23年)
3月15日 負傷者50名、家屋の一部損壊521棟など、富士宮
市、富士市を中心に被害が発生した。(平成23年3
月17日現在)

阪神・淡路大震災からの3つの教訓川

1. 建物の耐震化と家具等の転倒防止の重要性

死者 6,400 人余、負傷者約 43,800 人の大惨事となった阪神・淡路大震災。亡くなった方の 80%以上は建物の倒壊等によるもので、ケガをした方の半数近くは家具の転倒によるものでした。



今すぐにできること

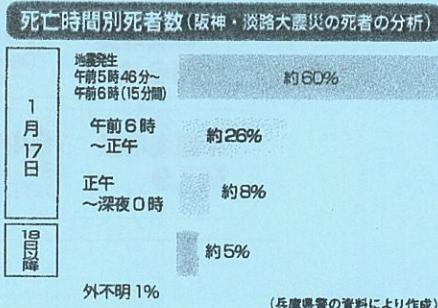
○昭和 56 年 5 月以前の木造住宅は、すぐに建設課（電話 22-2219）へ相談を。

耐震診断は無料。設計や補強工事には補助金が出ます。

○わが家の安全な暮らしのために家具等の転倒防止をしましょう。

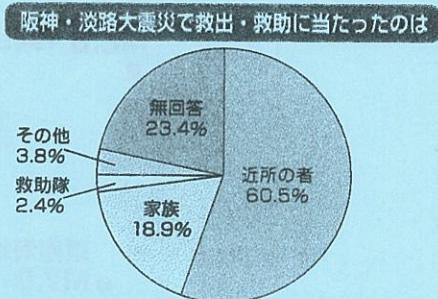
2. 被害者をただちに助けることの重要性

阪神・淡路大震災では、死者のうち発生から 15 分間で約 60%の方が、また、約 6 時間で約 86%の方が亡くなっています。いざという時のために、地域の防災訓練等に積極的に参加して、救出・救助や救急救命法を体得しておきましょう。



3. 自主防災活動の重要性

被害者をただちに助けることが大切にもかかわらず、大震災の際は、行政による救援がすぐには期待できません。実際、阪神・淡路大震災で被害者の救出・救助に当たったのは、80%近くが近所や家族の方でした。自主防災活動に積極的に参加して、災害に強い地域づくりを進めましょう。



下田市職員「出前講座」

市の防災について、市役所の職員が出向いてお話をする職員出前講座を実施しています。小学生以上で下田市内にお住まい、お勤め、または通学されている 5 名以上のメンバーでお申し込みください。詳細については企画財政課企画調整業務担当（電話 22-2212）にご連絡ください。

◇次号の内容◇

東日本大震災について・南海トラフ巨大地震最新情報について

下田市役所市民課防災係 TEL : 0558-22-2215

E-mail : shimin@city.shimoda.shizuoka.jp